

おすし

2018年8月
第680号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



「ダブル・イレブンは 平塚教会で《オープン・チャーチ》」

平塚教会牧師 北川 一明

わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。

(ローマ第一四章7・8節)

人が教会に来る動機は、最初は、自分の幸せのためでしょう。では教会は人を幸せにするでしょうか。

正しい幸せを追い求めれば、必ず幸せになれると私は信じています。

しかし教会の中で歪んだ幸せを追求すれば、あてが外れます。教会で物質的な利得を追い求めては、かえって不幸になります。キリスト教は御利益宗教ではないと言われる所以です。

精神的な利得や、愛を追い求めるなら良いのでしょうか

か。精神的なものでも、正しい追い求め方と歪んだ追い求め方とあります。

他者を愛する豊かさは、追い求めれば幸せになれます。しかし私たちが欲しがりがちなのは、自分が愛されることです。愛されたいと願うのは悪いことではありません。しかし愛されることを渴望しては、かえって不幸です。

多くの人は、最初は自分が幸せになろうと教会に来ます。信仰生活を続けているうちに、人を愛し、人を幸せにしたいと願うようになります。それが信仰の成長です。

人を愛し、人に仕え、人に貢献した結果、気が付いてみたら愛されていた。あるいは、今は愛されていなくても、いつか分かってもらえるかと安心できる。…それが教会で得られる利得です。

教会と社会の関係も同じです。

日本基督教団の教会の低迷は、目を覆うばかりです。教会が自分のことばかりを考えて、社会を愛さず、社会に仕えず、社会に貢献しないならば、低迷して当然です。低迷どころか、滅んだ方が良くいと神さまに判断されかねない危機を感じます。

目次

「ダブルイレブンは平塚教会で
《オープン・チャーチ》」
北川一明牧師… 1
各部探訪
チャイルド・ファンド・ジャパン
武田 都美江… 3

教会学校の広場
夏期学校 宮下 優子… 4
教会だより … 4
編集後祈 … 4

平塚教会は、社会に仕えようとしています。私たちが教会総会で決めた今年の目標は「社会の公器・平塚教会／平塚二葉幼稚園」です。

教会が社会に仕えるのは当たり前のことです。しかしその当たり前のことが出来なくなっている教会が、たくさんあります。

イエスさまは「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである（マルコ8:35）」と言われました。自分の命を救いたいと思って逆にそれを失う惨めな教会には、なりたくありません。

では、どうやって「社会の公器」になるのでしょうか。

炊き出し、学童保育、高齢者のデイ・サービス、カルチャー教室などを行っている教会があります。教会を知らない人に知ってもらうためには、それらの活動も有益でしょう。さらに、そうした活動を通してキリスト教信仰を伝えるチャンスも増えます。事業としての可能性は、追求したいです。

しかし教会が「社会の公器」であるのは、そうした住民サービスをするからではありません。

せん。住民サービスを通してキリスト教信仰を伝えることは重要ですが、それは「社会の公器」の本来の意味ではありません。副次的なものに過ぎません。

教会は、社会の中で福音を宣べ伝え、神に正しく礼拝を捧げていることで、既に社会の公器なのです。

11月11日（ダブル・イレブン）に《オープン・チャーチ》を実施することになりました。

大人と子どもの合同礼拝の日なので、幼稚園の保護者のかたを礼拝にお誘いします。この機会に、もっと広く教会来会を呼び掛けます。多くのかたに教会を知ってもらうためです。

教会に来たことのない人でも来やすいように、歓迎はしつつも、一方的な宗教勧誘はしない姿勢を示しましょう。さらに、私たち教会の奉仕の精神にも親しんでもらいましょ

う。そのためにオープン・チャーチ委員会を組織して、楽しいイベントを検討して行きます。

それでも、教会がオープンにして知らしめるべきものは、何をおいても礼拝です。

どんな礼拝を紹介すべきかは、この欄でも

書きました。1コリント14章にある通りです。教会に来て間もない人が、真摯に礼拝を捧げている信徒の姿を見て、自分の罪を指摘された思いになり、「結局、ひれ伏して神を礼拝し、『まことに、神はあなたがたの内におられます』と皆の前で言い表す（25節）」ような礼拝を、初めての人たちに紹介しましょう。

私たちが教会に通い始めたのは、自分のためでした。そんな私たちも、自分の罪と貧しさを悟り、しかし神に愛され導かれていることを信じてひれ伏すように変えられました。そんな私たちの真摯に礼拝する姿が、世の中のためになっています。教会は、礼拝するから社会の公器なのです。

炊き出し、学童保育、デイ・サービス、カルチャー教室は善いことです。でも教会でなくとも出来ます。悔い改めと感謝は、教会だから出来ることです。そして今の世の中に、どうしても必要なものです。

オープン・チャーチに、みなさんご協力ください。世の中の役に立ちましょう。そして、その結果として自分たちを幸せにしましょう。

各部探訪

チャイルド・ファンド・ジャパン

武田 都美江

平塚教会は、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動に協力させていただいています。この活動は、『アジアの貧困の中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように』との願いから生まれたものです。

具体的には、経済的に恵まれない子どもたちが学校に行くことができるように支援するということです。月額4千円の支援で、一人のチャイルドが学校に行くことができます。

平塚教会がこの活動に参加するようになったのは、西田直樹牧師（在任、1987年8月～2009年7月）が牧会されてまもなくだったとお聞きしています。

教会が外に向けてご奉仕ができればと、十人のチャイルドを、教員46名が里親としてお支えするようになりました。今から、30年前前のことになりました。

当時この活動は、基督教児童福祉会（CCWA）の国際精神里親運動（1975年4月～）と呼ばれていました。しかしその後、2005年3月からCCWAは法人名をチャイルド・ファンド・ジャパンと変更し、今に至っているのです。

里親の皆さま、こんにちは

私の勉強をご支援してくださって、本当にありがとうございます。私は今、チボリ小学校で勉強しています。里親の一人になれてとても嬉しいです。神様が私を助けてくださる里親の皆様を、いつも祝福していただきますように！

愛をこめて ジェネレン アマン

これは、支援しているチャイルドから里親の皆さんに届いたお便りです（六人の里親が支援）。里親の方々には、支援しているチャイルドの写真や成長記録、学校の成績などが報告されてきます。クリスマスカードやお手紙も送られてくるのです。

現在、平塚教会では、六人のチャイルドを22名の教員が里親として支援しています。初めのころに比して、少々の寂しさはありますが、時の移ろい故と感じております。里親の中には、CCWAの頃からずっと続けられている方が何人もおられます。

一人でチャイルド一人を支えてくださる方、500円、千円支援の方がグループを組んで二人のチャイルドを支えているなど、尊い奉仕の業には変わりなく、感謝でございます。

このチャイルド・ファンド・ジャパンの活動の上に、更に皆様のご協力の輪が広がっていきますよう

にと願っております。



小学生からの年賀状：ネパール

教会学校の広場

夏期学校

宮下 優子

7月26日～27日、小中学科の夏期学校を教会と東山荘を利用して行いました。

御殿場駅で東山荘のマイクロボスに乗り込むと、今年の夏期学校ビッグイベント「ふじさんぽ」の始まりです。

東山荘のネイチャープログラム担当者引率のもと、富士山の自然散策をしました。時々雨が降ってきて、森の木々が傘の役目をしてくれ私達は濡れることはありません。

シーンと静かな森に響く鳥のさえずりに耳を傾け、倒木の一本道を歩き、苔でふかふかした岩に触り、広場では、森の妖精探しもしました。キツツキの開けた穴をたたいたり、忍者になつて山道を駆け下りたりと、富士山の自然にすっぽり包み込まれた「ふじさんぽ」でした。

今回の宿舎は、山小屋風ロッジの二棟貸し切り。私達だけでのんびり過ごすつもりだったのが、そこは子どもたち、座布団陣地取りでロッジ内を駆け回り回って大騒ぎでした。

夜はキャンプファイヤー。子どもさんびかを歌いながらのじゃんけんゲームで、大盛り上がりした後は、金さんから「私は、奇跡の子と呼ばれています。」との証を静かに聞くことができました。

その後、入浴して九時には就寝です。一日活

動して疲れているはずなのに、子どもたちは布団に入ってもなかなか寝付かず、この時が教師にとつては一番大変な時間帯です。何となく静かになったのを確認し、十時からの教師打ち合わせ会に出て部屋に戻ってみると、子どもたちがいない!? 別の部屋へ行ってウノをして遊んでいました。「先生たちがいない時、別の部屋でウノをしたことが一番楽しかった。」と六年生の男の子。そうでしょう、そうでしょう。

「明日の朝はトレーニングするから、朝五時に起こして!!」一日中動き回り、夜もなかなか寝なかつたのに、朝五時に起こすと、早速外に出てトレーニング開始です。敷地内を走ったり、芝生の坂を駆け下りたりと、どこにそんなエネルギーがあるのでしょうか?

二日目は、早天礼拝から始まり、分級、ピー玉万華鏡作り。教会に戻って閉会礼拝。牧師から「君たちが今日この夏期学校に参加したのも神様のご計画なのだよ。」とメッセージ。

そう、今年の夏期学校のテーマは、「神様のご計画」。ヨハネ福音書九章の「生まれつきの盲人をいやす」の聖書を学びました。聖書のみ言葉がどれだけ子どもたちの心に残つたのか残らなかつたのか、私達には分かりませんが、「すごく楽しかった。」「来年も夏期学校に来るよ!!」という子どもたちの言葉を胸にしまい、今年の夏期学校も無事に終えることが出来ました。皆様のお祈りに感謝します。

教会だより

四ヶ月後には、クリスマス

役員会では、クリスマスまでの大まかな行事日程を決めました。どうぞ今から皆さんの予定に入れておいてください。

11月11日(日) オープンチャーチ

(大人と子どもの合同礼拝)

11月18日(日) 教区信徒研修会

12月16日(日) クリスマスコンサート

12月22日(土) 教会学校クリスマス礼拝

12月23日(日) クリスマス礼拝

愛餐会

燭火礼拝

7月20日(金) 幼稚科夏期学校

「教会のホームページを見てきました」と、おつしやられて参加された親子の方がいらつしやいました。主のお導きを感謝いたします。

編集後祈

猛暑・超暑・激暑……。とにかく暑い日が続きました。イエス様も荒野の40日を、このような暑さの中で過ごされたのでしょうか。口に出すと、「信仰の薄い者よ」と言われそうな気がします。



編集子